

自然環境保護・ 保全事業

日本の四季折々の美しい自然や貴重な生態系を次世代に受け継いでいくために、「九重ふるさと自然学校」を拠点に活動すると共に、さまざまな団体とパートナーシップを組み、保護・保全活動を推進しています。

九重ふるさと自然学校

セブン-イレブン記念財団が大分県九重町で運営する九重ふるさと自然学校は、「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ」を理念に、地元の方々の指導・協力を得て「くじゅうの自然保護・保全」と「トキもすめる里づくり」の活動をしています。

2012年度は、9月に開校5周年を記念した記念講演会を開催したほか、「自然共生型の田んぼづくり」、「ドラム缶炭焼き体験」、「自然教室講座」などに取り組み、多くの方にご参加いただきました。



定員を超える参加者で一杯の開校5周年記念講演会



トキもすめる田んぼづくり



ドラム缶炭焼き

自然遺産保護・保全活動

霧多布湿原保全活動

北海道の認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストとパートナーシップ協定を結び、霧多布湿原の民有地などを取得し、保全していくナショナルトラスト活動を行っています。2012年度に取得した湿地は約4.3ha、累計で約409haとなりました。



霧多布湿原はラムサール条約登録湿地
撮影：ノーザンビレッジ 北村康春

グリーンウェイブ2012

「グリーンウェイブ」は、国連の生物多様性条約事務局の呼びかけによる植樹活動です。当財団は、広報活動と苗木の提供に協力しました。「グリーンウェイブ(緑の波)」という名称は、植樹された樹木が、地球上を東から西へ波のように広がって行く様子を表現しています。



グリーンウェイブの植樹活動

日光杉並木保護活動

栃木県の「日光杉並木街道」は、日本で唯一の特別史跡・特別天然記念物の二重指定を受けている貴重な文化財です。年間平均30本の杉が枯れるなど、危機的な状態にある杉並木を保全するために、2012年度は杉の生育の妨げとなっている雑木を伐採するなど、約12,400本の日光杉並木の保護活動を支援しました。



樹齢380年を超える日光杉並木街道